

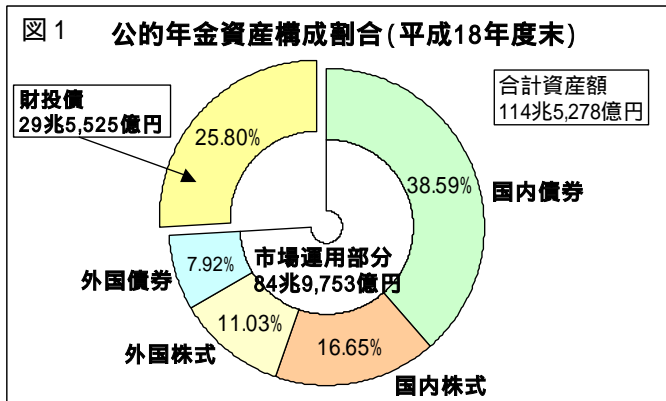
DCとは Defined Contribution の略 = 確定拠出年金のことです。平成19年10月30日 NO. 48

皆さんの大切な年金資産である公的年金や企業年金等の年金資産はどのように運用されているのでしょうか。ご自身の資産運用の参考にしていただければと思います。

公的年金・企業年金の運用実績

国民年金、厚生年金等の公的年金と、企業年金の運用実績を見てみましょう。世代間扶養、社会保険方式による公的年金と企業年金の運用を単純に比較することはできませんが、あえて運用の部分にスポットを当ててみました。

1. 公的年金（国民年金・厚生年金）



(出所)年金積立金管理運用独立行政法人のデータより岡三証券が作成

年金積立金は、国民年金、厚生年金を併せ、年金積立金管理運用独立行政法人における市場運用、財投債の引受け、財政融資資金(旧資金運用部)への預託、による運用を行っています。それぞれの内訳は、平成18年度末実績で、市場運用部分約85兆円、厚生労働大臣からの寄託金による財投債引受け約30兆円、財政融資資金への預託約42兆円を併せると約157兆円となっています。また、年金資産の構成割合を図1に示しました。

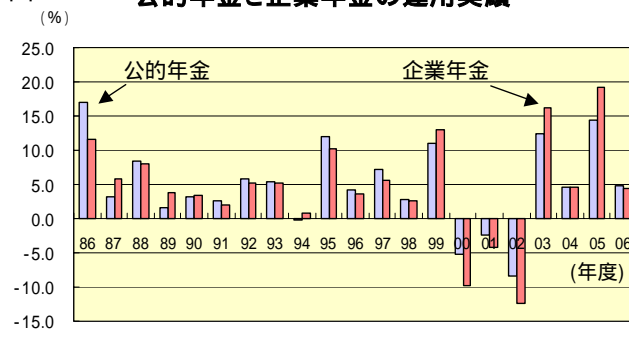
公的年金の運用実績は、図2に示した21年間の平均利回りで4.96%となっています。

2. 企業年金

企業年金連合会のアンケートによる企業年金の運用実績を調査しました(2006年度調査回収率78.04%)。この場合の企業年金は、厚生年金基金、確定給付企業年金、および適格退職年金などの確定給付型企業年金を指します。調査対象は、厚生年金

基金647、確定給付企業年金736、適格退職年金15です。企業年金の運用実績は、図2に示した21年間の平均利回りで4.71%となっています。

図2 公的年金と企業年金の運用実績



(出所)年金積立金管理運用独立行政法人、企業年金連合会のデータより岡三証券が作成

3. 確定拠出年金で期待される利回り

さて、確定拠出年金(以下「DC」)制度においては、企業型DCの場合には、企業の掛金拠出により加入者が個人別の年金資産の運用指図を行います。個人型DCの場合では、掛金の拠出および運用指図とも加入者の自己責任で行うことになっています。

企業型DCの想定利回りは、各々の企業やプランにより異なりますが、およそ2~3%程度に設定されています。想定利回りとは、年金給付が行われる際に必要となる年金原資を確保するための拠出金を算出する際のベースとなる数字であり、この想定利回り程度の運用利回りを確保できれば、相応の年金原資の積立が可能であると言えます。とはいえ、現状の市場金利では、定期預金は1%に満たない程度であり、また、10年国債のクーポンレートも1.7%程度となっております。ある程度リスク商品を組み入れなければ、2~3%の運用利回りを確保することは困難です。また、個人型DCでは、企業型DCと異なり、運用に掛かる管理手数料等が全て加入者負担となることも勘案した上で、運用指図を行う必要があります。

年金資産の運用は数十年単位での成果を想定することが肝要です。長期的な時間を味方につけることによりリスクを抑え、他の金融資産や不動産等をも含めた資産配分を勘案することが重要となるでしょう。ご自身の資産運用をご自身で行える賢明なファンドマネージャーになりましょう。

以上

制度への加入に関する最終決定はお客様ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。本資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。